

## 第9回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

- 審査員長 岩田 規久男 （日本銀行副総裁）
- 審査員 柏木 斉 （経済同友会副代表幹事、リクルート  
ホールディングス取締役相談役）
- 石黒 不二代 （ネットイヤーグループ代表取締役社長 兼  
CEO）
- 佐藤 健裕 （日本銀行政策委員会審議委員）
- 木内 登英 （日本銀行政策委員会審議委員）

### 1. 総評

日銀グランプリは今回で9回目の開催です。本年は全国から120編の論文が寄せられました。クラウドファンディングや電子マネーといったIT技術の活用、大規模災害への対応といった話題性に富むテーマもみられ、提言の多様性が広がっています。

質の面でもしっかりとした提言がなされているとの印象を持ちました。特に決勝大会に残った5チームは、わが国の金融に関して健全な問題意識を持ち、現状の問題点や課題を把握した上で、さらにそれを補強するためのアンケート調査や実務家への聞き取り調査を行っていました。こうした地道な取り組みを通じて、独りよがりにならず、地に足の着いた提言に結びつけている点は、高く評価できると思います。

また、本日のプレゼンテーションでは、提言のポイントを分かり易く伝えるため様々な工夫がこらされていました。また、審査員から多少厳しい質問を受けても、ひるまずに自分たちの主張を展開していました。このような将来の日本を担うに足る若者を見るのは頼もしく、また嬉しく思いました。

近年、多くの国で金融教育を重視する動きが高まっています。また、わが国の金融・財政政策は、長年続いたデフレからの脱却に向けて、大きな転換点を迎えています。こうしたタイミングで、日銀グランプリをきっかけに、金融の問題について深く考えた経験や、この場での審査員からの温かい叱咤激励は、学生の皆さんの大きな糧になったと確信しています。皆さんには、将来どんな道に進むにせよ、ぜひとも金融に関心を持ち続けてほしいと思います。

## 2. 個別の論文について

### 【最優秀賞】武蔵大チーム

#### 「被災企業訪問から考える、被災企業救済の新たなスキームの提案 ～災害に強い国づくりファンド～」

本提言は、東日本大震災の経験を糧として、将来の大規模災害に備えた、民間資金を主体とする被災企業支援ファンドの設立および情報提供等を行う支援機関を創設するというものです。

東日本大震災の発生から3年目になりますが、時間の経過とともに明らかになってくる問題点もあります。本提言では、自分たちの問題意識を出発点として、被災地において関係者に取材し、課題がしっかりと捉えられています。その上で、将来大災害が発生した場合の備えという視点から、その対応策を考え、公的資金に頼り過ぎず、民間資金による自助・共助や情報共有の促進によりスピーディな復興を実現しようとする姿勢も高く評価できます。さらに、プレゼンテーションにおいて、自らの主張を的確に伝えようとする工夫がみられました。

なお、本提言で取り上げている自然災害のようないわゆる「テールリスク」については、リスクの見積もり、ひいては保険料の算定が難しいという課題を克服する必要がある点は付言しておきます。

### 【優秀賞】東京理科大チーム

#### 「ポイントリターン型クラウドファンディング ～ウェブストアを融合させた新しい形のクラウドファンド～」

本提言は、インターネットを利用して、不特定多数の投資家から小口で資金を調達する「クラウドファンディング」という手法について、わが国の規制の枠組みに即しながら、購入型市場をベースに新たな投資家を呼び込もうというものです。

購入型のクラウドファンディング市場においては、投資家へのリターンは商品・サービスとなるため、資金の出し手が商品やサービスそのものに魅力を感じる投資家に限定されるほか、投資の継続性の面でも課題があると指摘されています。この点、本提言が「ポイント」をリターンとし、そのポイントを活用できるウェブストアを併設してポイントの実効性を高めようとしている点は、投資家の幅をある程度広げるとともに、ウェブストアの魅力的な商品等を梃子にして、それ以外の商品等にも資金の流れを呼び込む効果が期待できるように思われました。また、アンケート結果や定量的な分析を用いた考察に基づいた提案である点も、評価できます。

一方、購入型のクラウドファンドと投資型の融合により、どれだけ幅広い投資家を呼び込めるかという点に課題があると感じられました。

### 【優秀賞】東京経済大チーム

#### 「ナリターミナルカード ～成田空港を国際化せよ～」

本提言は、海外旅行後に死蔵される外貨を有効活用するため、コインを含む外貨でチャージできる成田空港専用のプリペイドカードを発行するというものです。

まず、本提言が「海外旅行後、外貨が余って困った」という自分たちの実体験に基づく問題意識からスタートし、ユニークな発想と大胆な割り切りで電子マネーの活用の提言にまで結びつけた点は評価できます。また、海外旅行客だけでなく、空港内の小売・飲食店や両替ショップにもメリットが生じるような仕組みを志向している点にも工夫がみられました。

一方、少額の取引となるだけに、十分な費用対効果を確認できるだけの市場規模となりうるかという点や、最終的な外貨紙幣の両替手数料やプリペイドカードの発行にかかる運営コストの具体的な負担方法といった論点があるように思われました。

### 【敢闘賞】立教大チーム

#### 「日本屋台骨頑健化計画 ～インターンを通して～」

本提言は、地域金融機関を学生と地方中小企業の接点として位置づけ、地域金融機関が受入れ主体となるインターンシップを活用しようとするものです。

本提言は、中小企業を日本経済の「屋台骨」と位置付け、地方中小企業に新たな人材確保ルートを提供するとともに、学生にも多様な選択肢を与えることにより、労働市場におけるミスマッチの是正を目指すものです。加えて、地方中小企業について豊富な情報を有するとともに学生の認知度も高い地域金融機関が仲立ちをすることで、企業と学生の双方にとってメリットがある仕組みを提案しています。

一方、提案する短期間のインターンシップでは、学生と中小企業がお互いをよく知り、マッチングに繋げることは容易ではないように思われます。そうした中、学生側、金融機関側の双方において負担が高まらないかたちで、実効性を確保する工夫にも触れていれば、提言がより説得的になったと考えられます。

### 【敢闘賞】福島大チーム

#### 「証券市場活性化に向けた新しい金融教育スキームの構築 ～「2-Step 投資学習プログラム」と「投資 Café」の創設～」

本提言は、わが国の個人投資家の金融資産が現預金に偏っている中、学生と社会人それぞれに最適化した投資教育の環境を整備することで現預金以外への投資を促し、ひいては証券市場の活性化に繋げようというものです。

まず、自分達のアイデアを検証するために、社会人を含む大規模なアンケート調査を行っている点は高く評価できます。また、その結果も踏まえて、受講者が興味をもって学習を継続できるよう、カリキュラムにゲーム性を取り入れたり、楽しみながら学べる「投資カフェ」を整備したりといった工夫もみられました。

一方、既に存在する様々な投資教育等の機会との違いが不明確であるように思われました。また、個人の金融資産が現預金に偏っている背景についての分析があれば、より説得力があったと思われます。あわせて、金融リテラシー向上という観点からは、より早い段階から金融教育を開始することも有効ではないかと思いました。

### 3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。様々な課題を申し上げましたが、この場に出された5チームの提言は、いずれもユニークな発想に基づき、自ら考え、仲間とのチームワークでしっかり作り上げた力作ぞろいでした。プレゼンテーションにも、いろいろな工夫を凝らしており、審査員だけでなく、この場に臨まれた観戦者の皆さまも、十分に楽しまれたことと思います。

日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の方々が、身近な生活や大学での勉学をきっかけに健全な問題意識を養い、自ら主体的に考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることを通じて、金融・経済面の課題に挑戦していただきたいと思います。

以 上